

## 日本の火山活動概況 (2010年9月~10月)

気象庁



図 1. 2010年9月~10月に目立った活動があった火山

## 浅間山 (36°24'23"N, 138°31'23"E)

山頂火口からの噴煙量に大きな変化はなく、噴煙高度は火口縁上100~400mで推移した。

火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。

9月18日に夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映が断続的に観測された。火映が観測されたのは2009年4月3日以来である。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中2回実施)では、一日あたり100~400トンとやや少ない状態であった。

山体周辺のGPS連続観測では、2008年7月初め頃から2009年夏にかけて深部へのマグマの注入を示す伸びがみられ、その後2009年秋頃からわずかに縮みの傾向がみられている。

## 伊豆大島 (34°43'29"N, 139°23'41"E)

三原山周辺の浅部を震源とする火山性地震の発生回数は2010年7月から、それ以前と比べて多い状態が継続

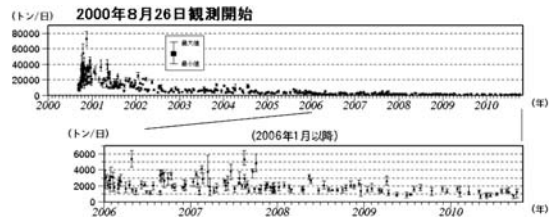


図 2. 三宅島 火山ガス(二酸化硫黄)放出量の変化(2000年8月26日~2010年10月31日)

しており、今期間は島の西方沖、山頂付近、島東部及び島北部を震源とする地震が一時的に増加した。10月17日20時01分にはマグニチュード3.1の地震が発生し、伊豆大島町元町で震度3を観測したほか、震度1以上を10月に11回観測した。

GPS及び体積歪計による観測では、2009年秋頃から今年5月にかけて収縮傾向がみられていたが、5月下旬から伸びの傾向がみられる。

これらと同様の地震活動と山体の膨張は2004年と2007年にもみられ、地下のマグマの活動に伴って発生すると推定されるが、直接噴火に結びつくものではないと考えられる。

また、GPSによる連続観測で、地下深部へのマグマ注入によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向が継続している。

9月29日及び10月27日に実施した現地調査では、三原山山頂火口内及びその周辺に引き続き弱い噴気が認められた。三原山山頂火口内の中央火口の温度や地表面温度分布は前回(2010年8月31日)の観測と比べて特段の変化はなかった。

## 三宅島 (34°05'37"N, 139°31'34"E)

噴煙高度は火口縁上概ね100~400mで推移した。

島内で実施した、COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中3回実施)では、二酸化硫黄放出量は一日あたり400~1,800トンと、依然として多量の火山ガス放出が続いている。また、三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、9月上旬より少ない状態となっている。9月26日00時22分に発生したマグニチュード1.9の高周波地震(約10Hz以上が卓越する地震)では、三宅村神着で震度1を観測したが、

この地震に伴って噴煙活動等に特段の変化はみられなかった。

全磁力観測では、火山活動とみられる有意な変化は観測されなかった。

GPS 連続観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動が継続している。

#### 硫黄島 (24°45'03"N, 141°17'20"E (摺鉢山))

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、9月24日から27日にかけて地震活動が一時的にやや活発となった。

国土地理院の観測によると、島全体の隆起を示す地殻変動が2006年8月に始まり、2009年10月頃からは停滞していたが、今年5月頃から再び現れている。島内南北方向の伸びの傾向は継続している。9月下旬から10月初めにかけて、一時的に島内南北方向の伸びの加速と島の中部での東向きの変動がみられた。

#### 福徳岡ノ場 (24°17.1'N, 141°28.9'E)

9月17日に海上自衛隊、18日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面に変色水は確認されなかったが、29日に海上保安庁海洋情報部が実施した上空からの観測によると、湧出点付近において、変色水が北東方へ消滅しつつ延びているのが確認された。

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

#### 霧島山 (新燃岳) (31°54'34"N, 131°53'11"E (新燃岳))

火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態で経過し、10月26日には日回数が45回となる等、10月下旬に増加した。火山性微動は観測されなかった。

噴煙活動は低調で、白色の噴煙が火口縁上概ね100m(最高高度は300m)まで上がった。

GPS 連続観測では、2009年12月頃から見られていたわずかな基線の伸びの傾向は、停止した。

#### 桜島 (31°34'38"N, 130°39'32"E (南岳))

昭和火口では、9月16日から10月6日まで爆発的噴火を含む噴火の発生はなかったが、10月7日から20日にかけて爆発的噴火がやや増加した。9月は噴火が47回

(そのうち爆発的噴火は38回)、10月は噴火が14回(そのうち爆発的噴火は13回)発生した。これらの噴火に伴い、最も遠くまで飛散した大きな噴石は4合目(昭和火口から800m~1,300m)まで達した。また、9月3日12時45分の爆発的噴火に伴って、ごく小規模な火砕流が東へ約500m流下した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

COMPUSS を用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中2回実施)では、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,000トン~2,100トン)とやや多い状態であった。

地殻変動観測では、傾斜計で6月中旬以降、顕著な山体地盤の沈降が認められ、GPS 連続観測でも、2010年初めころからみられた桜島島内の伸びの傾向は、6月頃から鈍化または収縮に転じている。これらのことから桜島直下へのマグマの供給量は減少していると考えられる。また、国土地理院によるGPS 連続観測では、<sup>あい</sup>良カルデラ(鹿児島湾奥部)の膨張による長期的な伸びの傾向がみられるが、7月頃から鈍化している。

鹿児島県の降灰量観測データをもとに解析した降灰量は、8月は25万トン、9月は16万トンであった。また、2010年の1月から9月までの総降灰量は約486万トンで、昨年1年間の降灰量(約235万トン)を上回っている。

#### 薩摩硫黄島 (30°47'35"N, 130°18'19"E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過した。火山性地震は9月6日以降少ない状態で経過したが、10月28日、30日及び31日に増加した。

10月22日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、前回(5月13日)と比べて硫黄岳山頂火口及びその周辺の状況に特段の変化はなかった。

#### 諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

御岳火口では、9月中旬以降爆発的噴火を含む噴火が断続的に発生し、噴煙活動は活発に経過した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL [http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.htm](http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm)

(文責: 気象庁地震火山部火山課 岡垣晶子)

## ○人事公募

## 【東京大学地震研究所】

1. 職種：特任研究員（特定短時間勤務有期雇用教職員（非常勤））
2. 研究テーマ：以下の7テーマ（順不同）を対象とする（括弧内は担当教員）。
  - (1) 西太平洋地域地磁気永年変化の解明（清水久芳・歌田久司）
  - (2) 火山噴火モデルの物質科学的パラメータの実験による決定（小屋口剛博・中田節也）
  - (3) 古地震記録を用いた過去の巨大地震の研究（佐竹健治・鶴岡 弘）
  - (4) 西南日本・東北日本下に沈み込むプレートの温度構造（山野 誠・馬場聖至・望月公廣）
  - (5) 無人ヘリによる火山観測システムの開発（大湊隆雄，金子隆之，小山崇夫，武尾 実，安田 敦）
  - (6) 中下部地殻せん断帯レオロジーの実験的研究（平賀岳彦・武井康子・三部賢治）
  - (7) 内陸地震の断層深部延長特性の研究（加藤愛太郎・飯高 隆）
3. 募集人員：若干名
4. 応募資格：着任時に博士の学位を有する者。  
応募前に各テーマの担当教員に連絡し，よく相談すること。
5. 採用予定時期：2011年4月1日以降の着任可能な日
6. 任期・再任：任期は着任日から2012年3月31日まで。再任は1回のみ。
7. 待遇：東京大学特定短時間勤務有期雇用教職員の就業に関する規定の定めるところによる。  
勤務時間は週35時間。
8. 選考方法：原則として書類選考。ただし面接を行うこともある。
9. 提出書類：
  - ・履歴書（市販用紙可，東京大学統一様式 [http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html) も可）
  - ・研究業績リスト（査読の有無に分類）
  - ・主要論文の別刷り3編（学位論文は要旨のみ），コピーも可
  - ・研究歴（A4用紙2枚以内）
  - ・採用後の研究計画（A4用紙2枚以内）
  - ・応募者について意見を伺える方1~2名の氏名及び連絡先
10. 応募締切：2010年12月2日（木）必着
11. 提出書類送付先：
 

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1  
東京大学地震研究所庶務チーム（人事）

電話 03-5841-5668

注意：封筒表に「特任研究員応募書類在中」と朱書きの上，書留にて郵送のこと

## 12. 問い合わせ先：

（公募全般について）

東京大学地震研究所 数理系研究部門 宮武 隆

電話：03-5841-5696

電子メール：[miyatake@eri.u-tokyo.ac.jp](mailto:miyatake@eri.u-tokyo.ac.jp)

（各テーマについて）各担当教員（連絡先などの問合せは上記宮武まで）

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月2日送信しました）

## 【京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設】

募集人員：1名

研究分野：本施設の研究者と協力して，施設が行っている研究分野あるいは，その関連分野における研究を進展させると共に，地球熱学の新しい領域を開拓する意欲的な方を歓迎する。

現在，本施設に所属している研究者やその研究分野等の詳細については，HP等（<http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp>）を参照のこと。

なお，応募にあたっては，本施設の教員と必ず事前に連絡を取り，研究プロジェクトについて相談すること。

適任者が見出せない場合は，施設長（[takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp](mailto:takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp)）と相談すること。

応募資格：着任の時点で，博士学位を有すること。

勤務地：地球熱学研究施設（大分県別府市）又は火山研究センター（熊本県阿蘇郡）

着任時期：平成23年1月16日以降の出来る限り早い時期。

採用予定期間：原則として採用日より2年間（3年まで更新可）

待遇等：(1) 身分；研究員（研究機関）

(2) 給与 月額約30万円

応募期限：平成22年12月10日（金）

応募書類：

1. 履歴書 氏名，生年月日，住所，連絡先（電話およびe-mailも記載）

学歴 高校入学以降の入学年月日，卒業年月日

職歴

資格

賞罰 学会賞など

2. 業績目録 査読論文，査読なし論文，学会発表など〈博士号（題目，取得大学，時期も記載）〉

3. 研究の概要および今後の研究の抱負（各A4，1枚程）

度)

#### 4. 主要論文 3 編以内

応募方法：上記書類を PDF ファイルで下記応募先に送付すること。

e-mail [takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp](mailto:takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp)

問い合わせ先：

〒874-0903 大分県別府市野口原

京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設  
竹村恵二

電話 0977-22-0713 (別府) 075-753-3938 (京都分室)

e-mail [takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp](mailto:takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp)

なお、本研究員（研究機関）ポストは、「\* 現在、本研究員ポストについて検討中で、システムが変更になる可能性があり、京都大学からの平成 23 年度非常勤研究員経費が来なくなる場合もある。」の文章を付記させていただきます。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 2 日送信しました)

#### 【九州大学大学院理学研究院】

1) 「男女雇用機会均等法」第 8 条（女性労働者に係る措置に関する特例）の規定により、女性教員の割合が相当程度少ない現状を積極的に改善するための措置として女性に限定した公募を実施します。

1. 募集人数：教授または准教授または助教 2 名
2. 所 属：大学院理学研究院 地球惑星科学部門，化学部門および物理学部門
3. 専門分野：
 

地球惑星科学部門：地球惑星科学（教授または准教授または助教、当部門のいずれかの研究分野と協力して教育研究を進められる方。現在の研究分野については <http://www.geo.kyushu-u.ac.jp/> を参照ください。）

物理学部門：物性実験（複雑物性）分野（助教）

化学部門：有機化学または生物化学（助教）

詳細は <http://www.sci.kyushu-u.ac.jp/> を参照ください。
4. 担当予定授業科目：専門分野に関する学部・大学院の専攻教育科目および全学教育科目
5. 応募資格：博士の学位を有する女性研究者
  - 1) 研究者としての経験（ポスドクを含む）を有する者。（本プログラムの規定により博士課程在籍者は応募できません。）
  - 2) 公募する研究分野に関して顕著な研究・教育業績を有する者、あるいは熱心な研究・教育意欲を有する者。

- 3) 採用後、重複して他の研究機関・企業等に所属しないこと。
- 4) 本学に在籍している学術研究員等は応募することができます。
- 5) 本プログラムの規定により、本学に在籍している女性教員（学術研究員等を除く）は、昇任の場合のみ応募が可能です。ただし、科学技術振興調整費本事業補助金（以下「補助金」という。）の支援対象外となるため、本学自主経費により支援を致します。
6. 採用予定日：平成 23 年 4 月 1 日以降できるだけ早い時期
7. 任期：地球惑星科学部門および化学部門では任期制を導入していません。物理学部門の助教の任期は 5 年（審査により再任 1 回可。最長 10 年）となっています。
8. 待遇
 

給与・保険：年齢、経験等に基づき本学の関係規程により決定します。
9. 研究費、部局における支援等
 

理学研究院では本公募で採用された女性教員が専門分野の教育研究で力を発揮していただくことはもちろんですが、その教育研究活動が女子学生・女子院生の研究者への道を選択する指針となることを期待し、研究者支援を行います。

  - ・ RA や TA の優先採用など、育児休業を取得しやすい環境を作ります。
  - ・本プログラムのスタートアップ経費では対応できない研究室の什器等については、研究院長裁量経費等による措置が可能です。
  - ・在職期間中に 1 年以内の海外研修を申請することが可能です。
10. 本プログラムによる支援
 

本公募で採用された教員は、採用年度にスタートアップ経費（実験系 150 万円、非実験系 100 万円）、2～3 年目は毎年 100 万円の研究費が補助金または本学自主経費により措置されます。またその他の支援制度については大学全体の公募要領をご確認下さい。（URL：[http://www.srp.kyushu-u.ac.jp/wrpa23\\_home/j\\_top.pdf](http://www.srp.kyushu-u.ac.jp/wrpa23_home/j_top.pdf)）

なお本公募により採用された教員は採用後 2 年以内に国際学会にて発表することが望まれます。また採用後 3 年以内に国際誌に投稿することを義務づけます。
11. 提出書類：それぞれ正本 1 通、写 1 通をご提出下さい。
  - 1) 履歴書（写真貼付）
  - 2) 業績目録（競争的資金取得状況を含む）



- 3) 学術論文の別刷 (主要なもの3編 (各2部) 以内, コピー可)
  - 4) 現在までの研究・教育内容の要約 (A4用紙1~2枚程度)
  - 5) 着任後の抱負 (A4用紙1~2枚程度) (地球惑星科学部門応募者は採用希望職位を明記)
  - 6) 応募者の研究内容等につき照会が可能な者2名の氏名, 職名と連絡先 (e-mail アドレス)
12. 本公募に関する問い合わせ先  
九州大学大学院理学研究院長 荒殿 誠  
電話番号: 092-642-2600  
e-mail: scikobosci.kyushu-u.ac.jp
13. 書類送付先  
〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学 大学院理学研究院 研究院長 荒殿 誠宛 (封筒に地球惑星科学部門に応募する方は「教員応募書類 (地球惑星科学)」、化学部門に応募する方は「教員応募書類 (化学)」、物理学部門に応募する方は「教員応募書類 (物理)」と朱書の上, 必ず郵便書留にて送付のこと)  
応募締切: 平成23年1月5日 (水) 17:00 必着

## 14. その他

- 1) 応募書類は返却しません。
- 2) 理学研究院における一次審査では, 面接審査を行う場合があります。
- 3) 研究戦略委員会における二次審査では面接審査を行います (平成23年3月上旬頃を予定)。その際の交通費は自己負担とします。ただし, 外国に在住する者にあつては, 日程を調整する場合があります。
- 4) 本学の男女共同参画推進及び女性研究者支援に関する取組については下記ウェブサイト等でご確認下さい。

男女共同参画推進室: <http://danjyo.kyushu-u.ac.jp/>

女性研究者キャリア開発センター:

<http://sofre.kyushu-u.ac.jp/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月5日送信しました)

## 【神戸大学 大学院理学研究科 地球惑星科学専攻】

1. 職名・募集人員: 教授1名
2. 所属: 地球惑星科学専攻  
参考 専攻ホームページ  
<http://www.planet.sci.kobe-u.ac.jp/>
3. 専門分野: 固体地球惑星科学
4. 職務内容: 理学研究科地球惑星科学専攻における教育研究ならびに理学部地球惑星科学科における教育に従事し, 全学共通教育を担当していただきます。特

に野外実習や, 岩石学の講義ができる方が望ましい。

5. 応募条件: 博士の学位取得者
6. 着任時期: 平成23年4月1日以降のできるだけ早い時期
7. 提出書類:
  - (1) 履歴書 (e-mail アドレスを連絡先として明記のこと)
  - (2) 研究業績目録 (査読付原著論文とそれ以外に区別すること, 下記(7)の主要論文に○印を付けて下さい。)
  - (3) 各種研究費獲得歴, 受賞歴
  - (4) これまでの研究経過・業績の内容 (2,000字程度)
  - (5) 将来の研究構想および抱負 (2,000字程度)
  - (6) 応募者について意見が伺える方2名の氏名と e-mail アドレス
  - (7) 主要論文 (5編以内) の別刷またはコピー
  - (8) 選考の過程でセミナーをお願いすることがあります。
8. 応募締め切り: 平成22年12月3日 (金) 必着
9. 応募書類提出先:

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1番1号 神戸大学 大学院理学研究科

地球惑星科学専攻長 郡司幸夫

応募書類は「地球惑星科学教授応募」と明記し簡易書留にするか, または宅配便で送付して下さい。また封書とは別に, 上記書類は電子ファイル (PDF) として電子メールで(1)-(6)と(7)に分割してお送りください。電子メールのヘッダ (To, Subject) は

To: apply-10a@itpass.scitec.kobe-u.ac.jp

Subject: 地球惑星科学教授応募

として下さい。

## 10. 問い合わせ先:

郡司幸夫 (e-mail: fsci-pla-director@edu.kobe-u.ac.jp)

## 11. 本公募は本専攻より出された平成22年6月16日付 (8月31日締切) 公募の再公募となります。

応募書類は返却しません。選考終了後, 個人情報は責任を持って破棄します。

神戸大学は, 男女共同参画社会基本法の趣旨に照り, 女性の方々の積極的な応募を歓迎します。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月10日送信しました)

## 【東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻】

公募人員: 准教授1名

公募分野: 宇宙惑星物質科学分野

応募資格: 博士の学位を有すること。大学院地球惑星科学専攻, および, 地球惑星物理学科あるいは地球惑星

環境学科の講義・実習・演習などを担当できる方  
 着任時期：平成 23 年 4 月 1 日以降のなるべく早い時期  
 応募方法：自薦もしくは他薦（他薦の場合は、ご本人が了解されていること）

提出書類：

- (a) 略歴書（学歴および職歴）
- (b) これまでの研究教育業績の概要（1500 字程度）
- (c) 研究業績目録（査読論文とそれ以外の総説、著書などに分類）
- (d) 主要な原著論文刷り 5 編以内（コピー可）
- (e) 今後の研究計画および抱負（1500 字程度）
- (f) 大学院および学部における教育への抱負（1500 字程度）
- (g) 自薦の場合は、応募者に関して所見を伺える方 2 名の氏名および連絡先（住所、電話番号、電子メールアドレス）
- (h) 他薦の場合は、推薦書および上記事項 (a) - (d) の概要がわかる書類

応募・推薦の締め切り：平成 23 年 1 月 7 日（金）

書類送付先：

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1  
 東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻 事務室  
 電話：03-5841-1978  
 （封筒に「宇宙惑星物質科学教員応募書類在中」と朱書し、郵便・宅配便の場合は配達記録の残る方法で送付のこと。特に要望がない限り、応募書類は返却いたしません）

問い合わせ先：

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1  
 東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻  
 星野真弘  
 電話：03-5841-4584  
 電子メールアドレス：hoshino@eps.s.u-tokyo.ac.jp  
 \* 着任後、学部を兼担していただきます。  
 \* 本専攻の詳細は、<http://www.eps.s.u-tokyo.ac.jp/> をご覧ください。  
 \* 東京大学大学院理学系研究科では、男女共同参画を積極的に推進しています。  
 詳しくは理学系研究科男女共同参画基本計画  
<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/gai/sankaku/kihonkeikaku.html> をご覧ください。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 7 日送信しました）

○IUGG 総会参加補助事業

IUGG 総会\*が来年 6 月 28 日～7 月 7 日にオーストラ

リア・メルボルン市で開催されます。これは IAVCEI 総会も兼ねています。日本火山学会では 2013 年に鹿児島で行われる IAVCEI 学術総会（IAVCEI 2013）において積極的な貢献を希望する若手研究者を本会議に派遣することにしました。

対象者：40 才以下（来年 6 月 28 日時点）の火山学会員  
 補助金：一人当たり 20 万円程度まで（約 10 名を予定）  
 応募方法：投稿する演題、発表者、要旨および IAVCEI 2013 で貢献する予定内容などを記述した申請書（様式 1）と渡航費見積書コピーを提出。

〆切：2010 年 12 月 26 日（学会事務所宛）  
 その他の詳細や様式 1 の取得については火山学会のホームページをご覧ください。

<http://www.soc.nii.ac.jp/kazan/J/index.html>

\* IUGG 総会では、火山関係の多くの学術セッションの他に、ニュージーランド、オーストラリア、パヌアツ、インドネシア、フィリピンの巡検も多く準備されています。火山学会員の多くの方が是非参加されるよう希望します。講演の申し込みは 2011 年 1 月 17 日までです。なお、登録の際には主な参加セッションを IAVCEI にして下さい。

<http://www.iugg2011.com/>

日本火山学会長

IAVCEI 会長 中田節也

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 15 日送信しました）

○地球規模課題対応国際科学技術協力事業 新規課題公募開始

JST では、「地球規模課題対応国際科学技術協力事業」における、平成 23 年度研究提案募集を平成 22 年 9 月 1 日（水）より開始いたしました。

本事業では、環境・エネルギー、生物資源、防災、感染症等の地球規模課題について、JST と独立行政法人国際協力機構（JICA）が連携して日本と開発途上国との国際共同研究を推進します。

詳細は、下記のホームページ（随時更新）をご覧ください。

<http://www.jst.go.jp/global/koubo.html>

（公募要領のダウンロードが可能です。）

公募締切：平成 22 年 11 月 2 日（火）午前 12 時（正午）

■今回の募集は「府省共通研究開発管理システム（e-Rad）」で行います。

e-Rad の詳細については以下をご覧ください。提案者は研究者情報を 2 週間以上の余裕をもって登録ください。

<http://www.e-rad.go.jp/>

(↑から提案様式のダウンロードが可能です。)

e-Rad による研究提案書のアップロードは締切の数日前に余裕をもって行ってください。

(※締切間際はシステムが混雑し、たいへん時間がかかる場合があります)

お問い合わせ先：

E-mail : global@jst.go.jp Tel : 03-5214-8085

JST 地球規模課題国際協力室

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 15 日送信しました)

### ○熊本大学総合科学技術共同教育センター特別講義のご案内

Announcement of Lectures in English by Invited Professors (Sougou-kagaku)

Global Joint Education Center for Science and Technology (GJEC) will offer the following intensive course in English. Prof. Jeff G. Ryan from University of South Florida (USA) will give lectures from November 9 to 10.

Advanced Science and Technology

Title : Chemical Tracking of Planetary Processes

Lecturer : Prof. Jeff G. Ryan (University of South Florida)

Date and place :

11/9 (Tue) 10 : 20-16 : 00, 11/10 (Wed) 9 : 00-16 : 00  
MOT lecture room, 4F Building of GSST

Lecture content :

- 1) The Periodic Table and Chart of the Nuclides-a toolkit.
- 2) Groundrules for elemental and isotopic behavior in natural systems.
- 3) Mathematical models for chemical fractionation : mass balance; Rayleigh processes; mixing processes; kinetic/chromatographic processes
- 4) Using graphical presentations of data to resolve process.
- 5) Selecting elemental/isotopic tools for the problem at hand : examples from lunar and oceanic basalts; chondrites
- 6) Using elements and isotopes to infer source : examples from metamorphic rocks; achondritic meteorites; serpentinites
- 7) Disentangling process and sources in complex systems : examples from active subduction zones and Martian meteorites.

Seminar :

Title to be announced later

11/9 (Tue) 16 : 10-17 : 40

Room C330, Building of Faculty of Science

詳細・聴講希望の方は熊本大・長谷中にお問い合わせ下さい。

E-mail : hasenaka@sci.kumamoto-u.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 20 日送信しました)

### ○「霞ヶ関環境講座」及び「第 38 回三宅賞受賞者の受賞記念公演」開催のお知らせ

【地球化学研究協会】

講座「生物多様性の起源を探る：分子系統学の挑戦」

西田 睦先生（東京大学大気海洋研究所所長・教授）

受賞記念講演「窒素同位体およびリモートセンシングを用いた海洋物質循環の先駆的研究」

三宅賞受賞者 才野敏郎博士

(独立行政法人海洋研究開発機構 地球環境変動領域物質循環研究プログラムディレクター)

日 時 : 2010 年 12 月 4 日 (土) 14 : 30~

場 所 : 霞ヶ関ビル 35 階東海大学校友会館 (地下鉄銀座線虎ノ門・千代田線霞ヶ関、下車)

参加費 : 賛助会員および学生は無料、一般 1,000 円 (資料代を含む)、懇親会へも参加できます。

当日も受け付けますが、参加人数把握のため t-sagi@ma3.gyao.ne.jp までお知らせ下さると幸いです。

地球化学研究協会ホームページ

<http://www.soc.nii.ac.jp/gra/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 18 日送信しました)

### ○第 38 回「環境賞」募集

対象 : 環境保全に関する調査、研究、開発、実践活動  
表彰 : 環境大臣賞

・優秀賞 (副賞 100 万円)

・優良賞 (副賞 50 万円)

募集期間 :

2010 年 9 月 21 日~2011 年 1 月 21 日 (金)

応募要綱・申請書

<http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/works/work01.html>

主催 : 日立環境財団, 日刊工業新聞

後援 : 環境省

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月15日送信しました)

### ○平成22年度地震火山災害予防賞公募のお知らせ

#### 【東京大学地震研究所】

#### 1. 表彰対象者（地震研究所 地震火山災害予防賞規則 第3条）

次の各号のいずれかに該当する者等を震災予防賞の表彰対象とする。

受賞者の所属、身分は問わない。ただし、過去に震災予防協会賞を受けたものは選考対象から除く。

一 野外観測・室内実験の技術的支援によって、地震及び火山活動に起因する災害の予防軽減に功績のあったと認められる者。

二 災害記録や古文書の発掘・整理によって、地震及び火山活動に起因する災害の予防軽減に功績のあったと認められる者。

三 その他の技術的支援によって、自然災害の予防軽減及び地震工学の発展に功績のあったと認められる者。

#### 2. 応募方法

候補者の氏名・所属・推薦理由（自薦・他薦を問わない）をA4用紙（形式自由）にまとめ、以下の選考委員会へ提出してください。提出書類は返却しません。

また応募書類に含まれる個人情報には選考及び採用以外の目的には使用しません。

#### 3. 応募締切

平成22年12月27日（月）午後5時

#### 4. 応募書類提出先

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所事務部庶務チーム宛

封書を用い、表に「地震火山災害予防賞応募書類」と朱書してください。

#### 5. 問い合わせ先

東京大学地震研究所地震火山情報センター

佐竹健治 TEL : (03) 5841-0219

E-mail satake@eri.u-tokyo.ac.jp

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sinsaiyobo.pdf>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月1日送信しました)

#### ○訃報のお知らせ

訃報のお知らせです。

本会会員 河野芳輝 様（金沢大学名誉教授）におかれましては、平成22年11月22日（月）にご逝去されました（享年72歳）。慎んでお悔やみ申し上げます。

なお、葬儀は下記のとおり執り行われます。

通夜 11月24日（水）19：00より

告別式 11月25日（木）11：00より

喪主 河野芳樹（ご長男）

場所 金沢メモリアルホール アネックス

[http://www.sousiki.co.jp/shiotani/contents/hall/hall\\_annex.html](http://www.sousiki.co.jp/shiotani/contents/hall/hall_annex.html)

（石川県金沢市旭町2丁目1番1号

電話 076-223-1311代）

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月24日送信しました)